

カンボジアの医療の現場から ～スタディツアー報告～

日本赤十字看護大学大学院修士課程国際保健助産学専攻

私たちは、日本赤十字看護大学大学院修士課程国際保健助産学専攻1年の4名です。2011年9月12日～20日にかけて、発展途上国での母子保健、看護、助産活動の実際について理解を深め、今後の国際保健助産活動の方向性を探求することを目的にカンボジアでのスタディツアーに訪れました。今回のスタディツアーでは、国立母子保健センター、プノンペン市民病院、TeokThiaヘルスセンターの3つの分娩を取り扱う施設を見学させていただきました。また、プノンペン市内の国立医療技術学校では、学校の歴史と現在行われているカリキュラムについての説明を伺い、看護学生との交流を行うこともできました。さらに、保健省にてJICAの医療技術者育成システム強化プロジェクトとして、看護教員の能力強化と看護関係規定の策定に取り組んでおられる藤田CAと望月看護教育/看護行政専門家にお話を伺いました。今回の実習を通して4名各々が感じ、学びを深めたことについて以下に記述します。

～これからの看護教育へと繋がるプロジェクト～

前田香織理

実習の中でTechnical School for Medical Care(以下TSMC)を訪れ、看護の教育体制を聞き、学生と交流しました。

TSMCでは看護教育が3年制と4年制の2つのコースで行われていました。保健省でプロジェクトの話聞いて、学士を教育できる先生を育てるためにタイの大学に留学している事を知りました。その話を聞いて教育体制は4年制にシフトして行き、看護師の質を高めていく方向性ではないかと感じました。TSMCでその事について何うと、2つのコースで両立して教育を進めていきたいと言うことでした。その理由に学生の経済的問題を挙げていて、学士を取るには時間や学費がかかり早く働きたい学生も多いため、3年制の教育を

終了することは出来ないと話していました。看護師の知識や技術の質を向上するため教育体制を整えていく上では、同時に奨学金のサポートを考えるなど様々な方向からの支援が必要だと感じました。

TSMCの交流会では学生に医師と看護師の違いについて質問しました。ある学生は「同じだ」と答え、別の学生は「医師は治療で看護師はケアをする事。精神的な部分までケアをする事が患者の回復に繋がる」と話していました。現在プロジェクトでは看護師の職能規定をJICAと保健省とで作成している話を伺いました。学生それぞれ看護師の捉え方が違う事には驚きましたが、職能規定が決まる事で看護学概論をはじめとした教育の枠組みが決まり、学生の看護観を育てる土台となる事を実感しました。これから教育が変わって行く過程を肌で感じる実習でした。



～カンボジアの看護・助産分野における教育体制と助産師の在り方について感じたこと～

石井 沙和子

私は、今回の実習の事前学習にてポル・ポト政権について学んではいましたが、実習を通して、知識人が虐殺されたことが現在のカンボジアの教育における質の向上が困難となっている原因に繋がっていることを改めて実感しました。看護や助産の分野においてもこの影響色濃く残っており、教師や管理職など教育を支えていく立場にある人々が十分な教育を受けられていないため、教育の基盤が揺らいでいる状況にあることを知りました。知識人が失われるということは、その国にとってかけがえのない財産を失ったことと同じであると感じました。

実習で特に印象に残ったことは、カンボジアの助産師の在り方についてです。本来、助産師は妊産褥婦の不安を軽減するために精神的なケアを行い、細やかな観察を行った上で自らのアセスメントに基づいたケアを実践する必要があると考えられます。しかし、カンボジアの助産師は、技術を重視し、精神的なケアは家族が行うものと捉えている傾向にあると感じました。また、医師の指示に従うに留まっており、アセスメント能力が不足していると感じました。これは、教育の基盤が揺らいでおり、助産師の職業規定がないため、助産師の専門性が確立していないことが原因であると感じました。現在JICAの医療技術者育成システム強化プロジェクトとして、看護教員の能力強化と看護関係規定の策定に取り組まれていることを知りました。今後は、看護における教育基盤ができ、職業規定が定まることで助産師の専門性も広く理解されるようになるのではないかと感じました。

～カンボジアの母子保健に触れて～

新井 美奈子

カンボジアは発展途上国であり、周産期死亡率が高い国です。そのため、現在保健省では母子保健に注目し、JICAでは医療技術者育成システム強化プロジェクトとして、看護教員の能力強化と看護規則の策定を行い、病院や学校への資金援助などを行っています。

今回、実習させて頂いた国立母子保健センターは、JICAの支援により設備が整い、日本で研修を行った助産師も数名いる大きな病院です。妊婦さんに笑顔で接し、手を握り、優しい声掛けを行う助産師もいました。しかし、私が驚いたことは、無愛想な態度や冷たい声掛けをする助産師も多くいるということ、また助産師の業務は技術的なもののみで、マッサージや精神的ケアは業務の一部と捉えていない助産師も多いということでした。そのようなケアの多

くは家族の手によって行われていました。また、助産師、病院、地域により行われているケアの内容が異なり、統一されていないという実態もありました。

カンボジアには、看護職の免許・登録制度はなく、職業規定もありません。そのため、上記の様な問題が生じてしまうのではないかと私は感じました。看護職者の数の確保と同時に、ケアの質の向上を図っていく必要性を痛感しました。

今後はJICAの支援をはじめ、看護規則の策定や教育カリキュラムの改良により、看護職の役割や専門性が明確化され、少しずつカンボジアの医療、とりわけ母子保健が改善されることを期待したいと思います。

今回、実習を受け入れて下さった病院や学校、そして忙しい中、詳しく説明して下さいましたJICAの方々へ感謝致します。



～医療専門職としての役割規定と質の向上～

堀家 千秋

JICAが関わっている様々な施設を見学させていただき、妊婦健診の方法やマタニティクラスの内容などは日本とほとんど変わりが無いことを知りました。日本では、「自然なお産」という言葉をよく用いますが、カンボジアでは、家族の付き添いや早期接触・母乳育児が当たり前に行われており、日本で医療介入の増加に伴い少なくなってしまう家族に見守られてのお産や母子の触れ合いが多く見られました。しかし、助産師が検温や投薬以外に母子と接する姿はほとんど見られず、家族に任せきりになってしまっているとも言え、十分な助産師ケアは展開されていませんでした。看護においても助

産と同様にケアが見えないということが課題となっていました。

「医療技術者育成システム強化プロジェクト」によって、専門職としてのあるべき姿が明確になることにより、ケアの質も向上していくと考えられ、看護規則をつくることの重要性を感じました。また、ケアが行われない要因として、十分な教育を受けてかつ臨床経験も豊富な教員がおらず、ケアの本質を教えることができないことが挙げられており、求める医療が量から質へと移行する中で人材育成は必要不可欠でした。

今後、カンボジアの文化や価値観を尊重し、強みである家族の絆を生かしながら、プロジェクトが進行することにより、カンボジアの医療の進歩、国民の健康増進に繋がると思

いました。

また、カンボジアは現在様々な国の支援を受けています。無料の医療提供により、貧困層にも医療が行き届くようにすることは大切ですが、同時にドナーの支援を受けずに自立していくために医療機関の収益確保も必要であり、貧困者の多いカンボジアにとって相互のバランスが今後の重要な課題であると感じました。

お忙しい中、丁寧に対応して下さいました。JICAスタッフの皆様、各医療機関のスタッフの皆様、住民の方々に支えられ、大変学びの多い実習となりました。ありがとうございました。

ブリッジ看護学士コース・カンボジア人留学生からの報告（続き）

After the class, we have many assignments to do. And we usually sit at the library searching for documents from the shelves, as well as from the internet. At the library, there is a manual which provide us the instruction on how to search for books by using computer network. Sometimes it was not easy for me to find the document, because some terminologies are new to me. In the past, I used to study French terminology and my English is still limited. Since I have stayed here for more than one month, my English has improved after the practicum at the Saint Louis College.

Regarding to the method of teaching, teacher reviewed the lessons to the students, then the students have to practice in the demonstration

room, under the supervision of the teacher.

Community Practicum

We have been assigned field observation project for two times as part of community practicum in Bangkok health center, which is located 15 kilometers from Saint Louis College. After we finished the community practicum at the health center, we came back and had lunch. We also have joined a conference and discussed together with other students and teachers. At that time, we have learned a lot about the student activities and how teacher manage them. We also write a daily report to the teacher after each observation during the community practicum.

